

# 都市計画の策定に関わった住民のまちづくり活動に関する研究 ～山梨県笛吹市を対象として～

山梨大学 学生会員 ○斉藤史浩

山梨大学 正会員 大山勲

## 1. はじめに

### 1-1 背景

山梨県内では、各市町村で都市計画マスタープラン、緑の基本計画、景観計画などの計画が多く策定されてきたが、近年、それら計画の策定においては、ワークショップ（以下「WS」）によって住民主体あるいは住民行政協働のまちづくり（以下「まちづくり活動」）に弾みをつけ、計画の実行に向けて住民による主体的な活動に期待するなど、まちづくり活動の展開が重視されるようになった。

しかし、公募等によって WS に参加した人たちはどのようなまちづくり活動を行っているのか、あるいは、WS による計画策定が終了した後のまちづくり活動は展開したのか（する可能性があるのか）、その実態は把握されていない。

### 1-2 目的

WS による計画策定に関わった住民のまちづくり活動の実態および課題を明らかにし、WS への参加の効果や計画策定後のまちづくり活動の活性化への課題を検討する。

## 2. 研究対象

対象地域は近年 WS による計画策定をおこなった山梨県笛吹市とする。笛吹市では 2007 年に都市計画マスタープランを、2009 年に緑の基本計画を、2010 年に景観計画を、それぞれ策定する過程で市民公募型の WS を開催し、計画素案を住民が作成して市長に提言し、行政がそれに基づいて計画を策定している。

## 3. 研究方法

### 3-1 行政への調査

予備調査として、山梨県および笛吹市の都市計画関連部署に住民まちづくり活動に関するヒアリング

調査をおこなった。その結果、県も市もその活動に関する把握はしていなかった。市では、Web や回覧での広報で市民に情報を伝え、パブコメで市民からの意見を収集しているだけであった。

まちづくり活動団体等の状況を把握できなかったため、計画策定に参加した住民へ直接ヒアリング調査をおこなうこととした。

### 3-2 住民への調査

笛吹市の 3 つの WS のいずれかに参加した住民 72 名（内訳：都市計画マスタープラン市民会議 39 名、緑の基本計画市民会議 21 名、景観計画市民会議 26 名 1 人 2 つの会議参加あり）に対し電話による調査依頼をおこない、調査協力を承諾してくれた 10 名に対してヒアリング調査を行った。

## 4. ヒアリング調査結果

### 4-1 質問項目

各質問対象者に対しまず「参加した会議名」「属性」「自由な時間」「活動内容(立場、参加期間、会自体の目的、頻度、参加人数、参加・設立のきっかけ、内容、課題、今後の展望)」を伺った。また活動内容と別にまちづくりに関する意識調査として、「住民行政協働の活動を行っていく上で課題に思うこと」「WS に参加されてこれから活動を行う際に有効であったこと・課題に思ったこと」「まちづくりに関心の弱い人の巻き込み方」「老若男女が係わることのできるまちづくりの活動」についても伺った。

### 4-2 活動の分類

#### 4-2-1 活動の分類化

調査の結果、10 名から 17 の団体活動(内 2 人同じ活動)の状況を把握できた。これら活動を内容ごとに分類する。まず、その活動母体である組織は行政が作った組織か、住民が作った組織かに分類した。次

キーワード：まちづくり、住民行政協働、住民活動

連絡先 〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-117 山梨大学工学部土木環境工学科

T E L 055-220-8598 E-mail : ooyama@yamanashi.ac.jp

に現在行っている活動のきっかけが行政かまたは住民であるかに分類した。最後に現在行っている活動は住民行政が協働で行っているのか、住民のみで行っているのかで分類した(行政との係わりがあっても、住民活動の結果を行政に報告し行政と議論する等、行政の活動が補足的な場合は住民のみに分類した)。以上によって8つに分類し表1に項目毎の活動内容を整理した。

なお、本研究では、計画策定WSを契機にした新たな活動の発生や展開、あるいは他の参加者の活動との連携の発生を期待していたが、残念ながら本調査ではいずれもその現象は見られなかった。WS参加への効果として、他の人の活動を知り、勇気づけられた、あるいは良い影響を受けたという意見は得られた。

4-2-2 分類結果、考察

分類1は8項目の中で活動が一番多い項目になった。これらは、行政協働ではないが住民同士で活動を行っているため住民のまちづくりとして今後の発展が期待できる。一方で金銭面、周知の点で活動の継続が難しいと考えられる。また分類2の2つの活動はすでに住民行政協働で論議、活動を行っており、今後も協働のまちづくり活動は行われていくと思われる。分類5、6は、活動の組織は行政によるものであるが、活動内容は住民発意により、活動も住民主体でおこなわれるもので住民主導のまちづくりとして今後発展していく可能性が期待される(社会福祉

協議会と防災ガイドブックの活動は今年終了し、残念ながらその後活動展開に至らなかった)。分類7の活動は行政による組織で行政発意の活動であるが住民の健康問題改善に関係する活動という住民が楽しく活動できる内容である。分類8では主に行政がまちづくりを含む行政の協議を推薦した住民とともに進めている会であり、計画策定WSに類似したものである。この活動を契機として他の活動への展開を期待したい活動である。

4-2 結果内容

4-2-1 活動内容

表に示した活動の内、ここでは4つの活動内容の例を示す。事例1,2,3は住民主体でかつ内容が多かった活動(分類1,5)の代表例として挙げる。このうち事例2は住民主体の活動で収益をあげるビジネスとして展開しており今後の活性化まちづくりとして発展が期待される活動例として挙げる。事例4は行政主体の活動(分類8)であり他の3つ活動との比較として挙げる。

事例1：「八代町Bさん 栃山天空ホテルの会」

「期間」は平成20年から会の代表として活動を行っている。

「活動の実態」は、地域に住むホテルの美しさについて多くの人に知ってもらうことやホテルの保全のため仲間5人とともに活動している。まず遊休農地を借りホテルが住むための水田を作った。6~7月

表1、活動の概要

| 元の組織 | 活動の発意 | 活動    | 分類 | 活動名                | 内容                                                                   | 発展しそうなもの |
|------|-------|-------|----|--------------------|----------------------------------------------------------------------|----------|
| 住民   | 住民発意  | 住民のみ  | 1  | 災害ボランティア素飛び会       | 地区住民の仲間とともに県内のアマチュア無線、バイクモクロス、パラグライダーの専門家への呼びかけ、講習を行い災害時の対策を行う       | ○        |
|      |       |       |    | 芦川のむらを元気にする会       | 芦川町外から来た人・若い人主体に地区住民へアンケート地区に必要なもの・求めていることを行いその元防災マップを作成、出展を行う。12月解散 | ×        |
|      |       |       |    | 栃山天空ホテルの会          | 地元住民の仲間とともに遊休農地にホテルが住むための水田づくり、ホテル観賞の呼びかけ、稲刈り、米の配付を行う                | ○        |
|      |       |       |    | グリーンツーリズム“てんこもりん村” | 地元住民の仲間と私営で農産物の生産・加工・販売、農業体験、生態観察、田舎体験、炭焼き、お木楽工作等体験学習を行っている          | ○        |
|      |       |       |    | ボランティアガイド          | 県外の観光客を対象とした笛吹市内の史跡の案内を行っている                                         | ○        |
|      |       |       |    | 一宮郷土史会             | 会員が観光客に対して一宮の歴史、文化財の案内、小学校への資料配布、説明会の実施、おまつり史文の詩の作成・発表会を行う           | ○        |
|      |       |       |    |                    |                                                                      |          |
|      | 行政発意  | 住民のみ  | 3  | 御坂クラブ              | 御坂地区に住む住民が主体で行政の協力のもと道路沿いの花、木々の植樹・除草・間伐、落ち葉掃き等を行う                    | ○        |
|      |       | 住民のみ  | 3  | 御坂竹居区リニア対策協議会      | リニアにより影響を受ける地域住民がJR東海JV笛吹市県への協議会に向けて要望、条件などについて話し合う                  | ○        |
|      |       | 住民・行政 | 4  | -                  | -                                                                    | -        |
| 行政   | 住民発意  | 住民のみ  | 5  | 社会福祉協議会            | ボランティアとして協議会本所から支所まで年配の方の食事の運搬を行っている                                 | ×        |
|      |       |       |    | 笛吹市連合区長会への話し合い(区会) | 地区内で話し合い防災対策、環境整備、ボランティアなど区長会で出た結果・行った活動の反省。                         | ○        |
|      |       |       |    | 上矢作区防災ガイドブック編集委員   | 地区住民で編成された委員で防災マップを作る上での地区の調査、防災ガイドマップの作成・報告・配付を行った。22月で委員会終了        | ×        |
|      |       |       |    | 消防団の話し合い           | 地元地区の災害時の水防チェック、防犯の呼びかけ、年配の方のみ・新しく移り住んできた家の把握・呼びかけ働きかけ等を行う           | ○        |
|      |       |       |    |                    |                                                                      |          |
|      | 行政発意  | 住民・行政 | 6  | サロシ“老人クラブ”         | 地区住民主体に地区の公民館で健康診断・健康体操、レクリエーションを企画、実行する                             | ○        |
|      |       | 住民のみ  | 7  | 笛吹市剣道連盟            | 健康・武道の精神の育成のため小中高生を対象に剣道の指導をする                                       | ×        |
|      |       |       |    | 教育委員会 一宮支部         | 地区の老人を対象に健康づくり(グラウンドゴルフ)、作品展、観劇へ参加・見学をする                             | ×        |
|      |       |       |    | 指定管理者検討委員会         | 市からの推薦により参加。住民の要望に沿った地域間のコミュニティの活性化のための方針を決める                        | ×        |
|      |       | 住民・行政 | 8  | 笛吹市廃棄物減量等推進審議会     | 市からの推薦により参加。ゴミの排出量の53%の削減を目標に市内の分別方法、マナーについての話し合いをする                 | ×        |

ではホテルの繁殖期で観光に訪れる人に鑑賞の際のマナー指導のチラシに配布、捨てられたゴミの回収、11月には水田で取れた米の収穫。取れた米は餅やご飯にし、老人クラブや保育園3か所に寄付を行っている。

「きっかけ」は近所にたくさんの平家ボタルを見つけ、その美しさに感動しホテルを多くの人に知ってもらいたいと考えたためである。

「課題・今後の展望」は、ホテルの今後も保全の活動を行っていくことと、観賞時にマナーが良くない人が少なくならないのでマナーを呼び掛けることである。

#### 事例2：「芦川町Cさん グリーンツーリズム“てんころりん村”」

「期間」は平成21年7月から行っており、当初の1年半、代表として活動を行った。

「活動の実態」は、遊休地の復興、生物と食べ物を同時に楽しむ、学習する場の創設することを目的に、農産物の生産・加工・販売、農業体験、生態観察、田舎体験、炭焼き、お木楽工作等の体験学習を私営として行っている。

「きっかけ」は遊休地の有効な利用方法について考えていた際に、平成21年に国から補助金を受けたためである。

「課題・今後の展望」は、現在情報公開の手段がHPのみなので周知が弱いので参加者数の増加をどうつなげていくか、また農作物育成などの指導の勉強を行っていくことである。

#### 事例3：「一宮町Aさん 上矢作区防災ガイドブック編集委員」

「期間」は平成21年12月から22年3月まで編集委員長として在任した。

「活動の実態」は、編集委員5名で区の防災組織や防災マップの見直しを行うため、作成避難経路の地図、災害時の連絡先、消火栓・水路の地図の確認や防災グッズの一覧などまとめ、防災ガイドマップを作成し、区内の会議内で提示、配布した。

「きっかけ」は区長をしていた時に区内の防災に対する問題意識を高めたため。

「課題・今後の展望」は、実際の発災時に行動を

実践できるように地域の人たちにこの内容の習得を呼び掛けることである。

#### 事例4：「御坂町Dさん 指定管理委員会」

「期間」は平成19年から20年まで2年間委員として在任。会の開催頻度は月に1回行われる。

「活動の実態」は、行政、民間担当、住民の委員計10名で、民間に委託管理された市の建物(石和スコレーセンター、一宮文化会館等)に対して、住民要望にこたえるサービスの充実化・運営の経費の割り当てについての話し合いを行うもの。

「きっかけ」は御坂区の区長を行っていた際に、市から推薦により参加した。

「課題・今後の展望」は、少しでも多くの人にこのような市について係わってほしいこと。関心があり無い人にも積極的な参加を促すこと。

#### 4-2-2 活動内容の考察

「上矢作区防災ガイドブック編集委員」は活動自体すでに終わってしまい今後のまちづくり活動としての発展は期待できないが、対象者のAさんは会が終わってからいざ災害が行ったときに皆がスムーズに対応できるように資料内容の周知のための呼び掛けという次の展開を考えている。住民発意・住民主体の活動の効果があつたと評価できる。

「栃山天空ホテルの会」ではホテルという地域の自然への感動が活動の原動力となっていた。住民主体の活動の活性化には、住民の感動をいかに生むかを考える必要があろう。また、行政との関わりあいがないことがわかった。理由として会自体が発足から間もなく、地元の住民たちで細々で行っていきたいという意見があつたからであつた。行政が協働を働きかける場合、活動の主体性を尊重した協力の仕方（費用・体制ともに）が望まれよう。

「グリーンツーリズム“てんころりん村”」は、ちょうど問題意識がふくらんでいた時に補助金が呼び水となって事業化が展開した。活動の芽がでたときの行政の後押しの効果が認められる。

「指定管理委員会」に参加したDさんは委員の選出方法と少人数での委員会形式に課題があると挙げていた。施設の管理運営を単に民間業者に任せるのではなく、施設利用者（維持管理というハードルの

高い委員としてではない一般の利用者)をいかに巻き込むかが課題と考えられる。

#### 4-2-3 意識調査

ヒアリング内容として個々の活動の内容の他に、今後のまちづくり活動を行っていく上での課題を伺った。質問した4つの項目について、多かった意見をまとめ考察する。

##### (1) 住民行政協働の活動を行っていく上で課題に思うこと

「地元住民や地域外からの人からの活動の周知・興味を持ってもらうことが重要だ」という意見が多かった。次にその解決策として「まず関心がある人から積極的に行動することが大事だ」という意見が多かった。

今回の調査で、たとえ行政に係わる組織や活動であっても、行政は住民の活動を把握していなかった。また、WSへの参加してはじめて他の人の活動を知ったという意見も多かった。まちづくり活動の実態把握を行政が主体的におこない、住民に広くアピールしていくことが求められる。また多くの活動の実質的な活動は少人数でおこなわれていたことから、まず1人でも行動におこす効果は大きい。

##### (2) WSに参加されてこれから活動を行う際に有効であったこと・課題に思ったこと

有効であったこととして「行政と住民が協働で話し合う場の必要性を確認できた」「合併して大きくなった本地域において旧他地域の住民と意見を交換できた」という意見がみられた。課題としては、「せっかく盛り上がった会議が解散してしまう現状(継続しないこと)」「メンバーが年配の方に偏ってしまっている」などの意見がみられた。

それから考えられることは、会議が終了した後で提示された内容を各区で話し合う場を作り区民の意見をまとめた上でまた市で討論する場を作ることやWSの中であげられた様々なリーディングプラン(例えば小学校中学校からのまちづくりの学習など)の実践など、活動の芽を後押しする行政の働きかけが必要であると考えられる。

##### (3) まちづくりに関心の弱い人の巻き込み方

「公民館での会合、同級会、サークルなど多くの人が集まる場で自分が行っている活動の取り組みを

紹介する」、「活動の達成感、満足感、充実感をPRする」「自分自身がまちづくりに関する興味を深めたり、知識を増やすための学習をすることによって、関心が弱い人へより効果的な投げかけをする」「自分の家の周りをきれいにしたり、植樹を行うなど実践行動で示し興味を引いてもらう」といった意見がみられた。

##### (4) 老若男女に係わるまちづくりの活動について

「年配の人の地域に関する知識と、若者の行動力が組み合うことでよいまちづくりができる」という意見がみられた。

子供から老人まで一緒に行う活動の場の必要性があることが分かったが、現在老人と子供と一緒に触れ合う場が少なくなっているので改めてこれについての必要性が指摘できよう。

#### 5. おわりに

本研究は対象事例が少ないが、いままで把握されていなかった住民の活動実態を把握し、活動を活性化させるための課題を抽出した。

3つの計画への参加者を手がかりにして、そこから他の活動の把握を期待したが、活動者同士の交流もほとんどなく、対象市のまちづくり活動の全体像を捉えたとは言えない。

今回把握した活動の活性化のための、活動の周知・PRとともに、その周知活動を媒介として他の活動の掘り起こしを進めていきたい。

#### 【謝辞】

ヒアリングを行った山梨県都市計画課担当の方、笛吹市まちづくり整備課担当の方並びに笛吹市住民の方御礼申し上げます

#### 【参考文献】

1.大和田清隆素 小泉秀樹 大方潤一郎(2000)

「都市計画マスタープラン策定過程への参加を契機とした市民活動の展開に関する研究」

日本都市計画学会学術研究論文集 P217～222

2.笛吹市都市計画マスタープラン(2009)